

社会の変化と介護保険制度の改正

4年余りのコロナ禍もようやく鎮まってきたかの感がありますが、皆さま方と職員が力を合わせて乗り越えてくることができました。人知の及ばない新興感染症の怖さをあらためて思い知ったと言う辛い日々の連続でした。

そうした状況が原因かどうかは分かりませんが、日本の婚姻の数も減り、合わせて生まれて来る赤ちゃんの数も80万人を切ったという報道が続いて、少子化に一層拍車が掛かっています。

今の日本は、まさに多死・超高齢超少子化社会です。

来年団塊ジュニア世代が高齢者となる2025年問題を前に、この4月介護保険制度が変わりました。医療保険制度と障害福祉サービスとの同時改定で、上記した社会の状況を色濃く反映したものです。

とりわけこの度のコロナ禍の経験からも、感染予防や介護と医療の強い連携強化が一番に目がつくところですし、健康寿命の延伸やQOLの維持向上という点からはリハビリや栄養マネジメントなどに力点が置かれていることが分かります。

また、介護現場でのICT化や見守りセンサーなどの導入も進展してきました。ご利用者の皆さまの尊厳を守り、自立をご支援するという介護保険制度の主旨に沿ったプログラムや機器類の普及をさらに期待しているところです。



溪仁会の各施設での外国人職員も増え、日本語も上達してきました。とても大切な職員の方々です。物理的環境が進化し、また障がいをもった職員をふくめ多様な職員が協働する今の介護現場ですが、「介護を通して人間的に成長していくことを学ぶ」を合言葉として日々の介護サービスに努めてまいります。

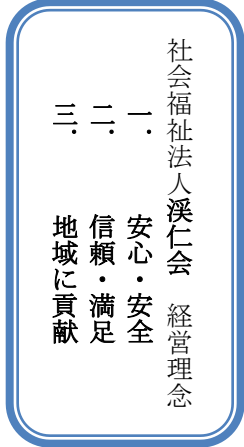
変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い致します。

社会福祉法人 溪仁会
理事長 谷内 好

～喜らめきの郷ベストショット集～



次回もお楽しみに！



～活動を通して地域と交流～



美味しいおそばができました!!



- 「留寿都手打ちそば愛好会」の皆さまにそば打ちの実践を披露していただきました！そば打ちの工程の解説や、そば切りの実演にも参加させていただき、有意義な時間となりました。「そば打ちの会」は他者交流の機会にもなり、久しぶりの親交に話題も尽きない様子でした。
- やっぱり「懐メロ」は盛り上がります。青春が思い出されます。ラビット演芸クラブの皆さま有難うございました。



ボランティアの皆さま、新年度も宜しくお願い致します。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類感染症に移行し、新型コロナに関する情報を見聞きする機会が大きく減りました。しかし、感染症がなくなったわけではありません。

両施設では、今年度、下記の感染者がありました。関係各位・ご家族の皆さまには、大変なご心配とご迷惑をおかけしお詫び申し上げますとともに、面会の制限等についてご理解・ご協力の程宜しくお願い致します。



	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
喜らめきの郷	0名	0名	3名(入院1名)	23名(入院4名)
銀河の杜	0名	4名	1名(入院1名)	0名

(二次感染による入院含む)

引き続き、感染症対策の徹底に努めてまいります。